



第38回六甲クイーンズオープン

7月8・9日
神戸六甲ボウル

愛娘の応援を力に 山田幸6年ぶりの3勝目

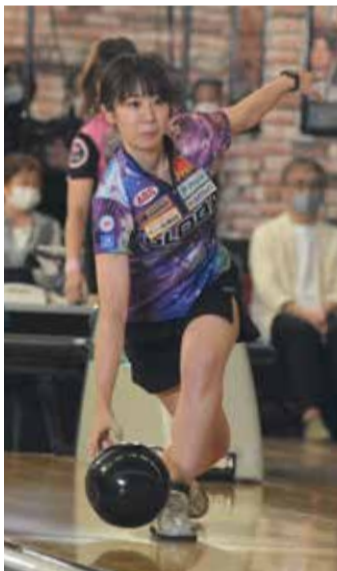
第38回六甲クイーンズオープントーナメントが、7月8、9の両日、神戸六甲ボウルで開催され、プロ85名、アマ10名によって争われたが、山田幸(48期・ボウルアロー/ABS)がトップシードの絶対女王・姫路麗を下して、2016年のMKチャリティカップ以来6年ぶりの3勝目、そして昨年の6月に長女を出産、母親になっての初タイトル獲得となった。(主催: 株式会社サザンモール六甲)

◀喜怒哀楽全開の山田「ちゃんと投げられたときより、失投やラッキーでストライクになったときのほうがリアクションが大きくなる。だから恥ずかしさはいけど失投が多いんだと思います」

◀④が残ってもおかしくないストライクが多かったが「アジャストをしにいったら⑦⑩になりそうだったので、厚めでいいと思って投げていました」と冷静な判断の山田



予選を3位の姫路が、準決勝でトップに躍り出ると、8名による総当たりラウンドロビンも、接戦ながら一度もトップを明け渡すことなくトップシードを獲得した。2位で進出の川崎由意が、姫路に続く2位の座を死守したほか、3位に山田、4位に久保田彩花と、48期の3名がTV決勝に駒を進めた。



▲「48期3人で残れてうれしいけど、負けたくない気持ちは他の期よりも強い。その意味で今回も負けて悔しいです」と久保田

4位決定戦

4位決定戦の同期対決は、ダブルスタートのあとスペアをはさんで4フレから2つめのダブルの久保田が、4フレからダブルの山田を1マークリードで折り返す。しかし「あれがすべてでした」と振り返った久保田の6フレは、ビッグフォーでオープン。7フレから2つめのダブルでリードを広げた山田が、217:197と振り切った。

3位決定戦

3位決定戦の同期対決は、川崎が1フレからフォースで先行すれば、山田は4フレからターキー、さらに8フレからのダブルでほぼ互角のまま10フレ勝負へ。10フレを先投げの山田は厚めで8本カウント。「ああ負けたなと思いました。そしたら由意ちゃんが…、びっくりしました」との山田の言葉どおり、川崎の10フレ1投目は完璧に見えたが、無情の⑧⑩スプリット。「しっかり投げた結果なので、仕方ないですね。山田プロのノリノリの波に飲み込まれました」と肩を落とした。



▲3試合連続TV決勝進出の川崎「以前よりも練習量を増やしたのが、結果につながってきていると思う。でも勝ちたかった」

優勝決定戦

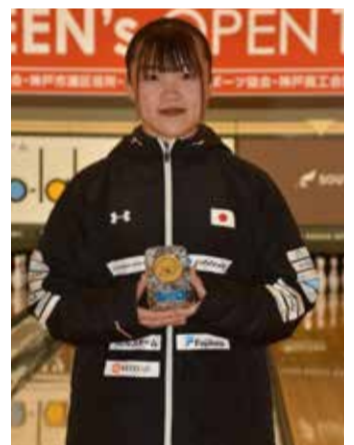
1フレいきなりスプリットでオープンのスタートの山田だったが、「ちゃんと投げたけど



▲今季もランキングはトップの定位置も、まだ優勝のない姫路「関西オープンも48期の内藤真裕実プロに負けたし、48期恐るべしです。でも必ずリベンジします」

思ったよりも曲がって、変化してるんや…」と、内に寄ったアジャストが正解で、2フレからターキー。一方の姫路は、ラウンドロビン5G目に149など、「33、34番レーンは私には鬼門。なんであそこだけと思うけ

ど、自分には当てはまる場所がなかった」と、結局ダブルを一個も奪えず184でフィニッシュ。5フレは失投でスプリットのオープンを作った山田だが、7フレからのフィフスで絶対女王に完勝、母親になってのうれしい初優勝となった。思えばデビューの年、全日本女子プロ選手権で初タイトルを獲得したときの、優勝決定戦の相手も姫路だった。

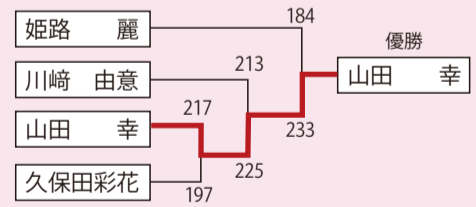


▲ラウンドロビンへ次点の9位と健闘の近藤菜帆選手(名古屋グランドボウル)がベストアマ

●優勝決定戦

山田 幸									
⑧	1	2	3	4	5	6	7	8	9
9	39	66	85	94	114	144	174	204	233
姫路 麗									
8	2	3	4	5	6	7	8	9	10
20	40	60	80	97	106	126	146	164	184

●決勝ステップラダー



今月の表紙 山田 幸・勝利の女神降臨

ラウンドロビンは連敗スタートで、このままダメかなと思っていて、3G目にパッと振り向くと、来てないはずの娘(めぐり)の顔が見えたんです。そこからビッグゲームが出るようになった。また平行ピンを取れたり、全然ダメと思ったのがストライクになってくれたり…。だから私じゃなくて、めぐりのパワーがすごいなと思いました。テレビ決勝に48期が3人残ったけど、先輩には胸を借りるつもりでいけるけど、同期に

は負けられない気持ちが先立って、やりにくいです。(川崎)由意プロも(久保田)彩花ちゃんも3勝しているので、そこにまずは並びたいなという気持ちがありました。由意プロとの対戦は、ラッキーがいっぱいありました。とくに10フレ、ストライクを持ってこれなかったときは、負けを覚悟しました。普段の練習でも一日のどこかで、ここで持ってきたら優勝、というのをやっているけど、今回まさにその場面で持ってこれなかつ



▲1歳の誕生日を迎えたばかりの愛娘を抱いて優勝インタビュー

たので、優勝はまだまだ先やなと思ったんですけど…。今みんなが目標にしている姫

路さんにここで勝てたのは、これからの自信につながります。デビューの年に優勝したときは、現実を知らずに、自分のことしか見えていなかった。周りの選手のすごさを知っていくにつれ、自分はまだまだだなのうを感じていました。とくに出産前は、ラウンドロビンにも残れなくて、ステップラダーなんてさらに遠い感じで、ずっと気持ちは沈んでいました。そんなときに妊娠がわかって、ああこれで終わっていくんだろうな、主人(和田秀和プロ)に頑張ってもらって、応援に回

ろうかなと思っていました。でも家族みんなが、私が投げている姿を見たい、応援すると言ってきて、もう一回頑張ろうという気持ちになりました。だから優勝できて、本当に幸せです。もう優勝はできないんじゃないかと思っていたし、周りからも、出産したら選手としては終わっちゃうんじゃないかと言われたけど、それを覆すことができたし、私より若い子たちにも、可能性があるよというのを伝えられたかなと思います。優勝ボール: ドリーム・シフト ABS 900GLOBAL